

19

葛西音弥先生碑

昭和5年（1930）6月 建立

「建立者」川村常吉ほか

「題字・書」高山如禅静敬

【解説】

元弘前藩士で漢学者である葛西音弥のことを綴った石碑。

葛西は、漢学者であると共に歴史家でもあり、初めて青森市の歴史を綴った「青森市沿革史」や「青森県租税誌」、「青森県地誌編者」などの著書があります。

葛西は、初めは弘前藩に入ったのち、江戸の昌平黉に入り学を修めています。明治維新の変動期には京都に入り国事に奔走したとされています。帰藩後は、明治3年（1870）弘前藩に洋学教授を目的に、弘前敬応書を開設したとき、学士兼侍講として招聘されました。その後、青森に青森英学校が設けられたとき青森に移り同校教頭となりました。

同校は廢藩置県と同時に廢校となりましたが、青森正覚寺に四教塾を開いて、青森の子弟の教養にあたりました。晩年は、青森栄町に住み、詩文を教え、斗酒と号してのちに緑城と改めています。大正六年（1917）に84歳でこの世を去りました。

【石碑に彫刻されている文字】

（表面）
葛西音弥先生碑

從一位 勳一等 功二級 一戸 兵衛 謹書

余自幼聞斗酒先生名壯年接先生聞其論始服學問該博先生諱於菟通稱音弥号斗酒齟齬好學唔啞不絶口聞者皆驚入藩學稽古館修程朱學兼屬詩文壯李遊昌平翼刻苦不倦業日進林大學頭拳為塾長戊辰之變為貢士入京都奔走國事無幾歸藩欲改革學政振起風黉擢為稽古館教授先生亦將有所圖策然藩廢世變百度僉革乃移居青森開一塾曰四教書院以誘掖後進晚季以青森県庁及市役所囑編地志租允志市志大正六年六月廿八日以病歿距天保十年六月十九日生春秋八十四先生學識雋邁而官路蹉跎蓋性狷介不與人容遂所施設而終者實可惜哉先師甕江先生著隨變紀程有云葛西音弥旧弘前藩士少東遊為林學士塾長與余相識某人博通經史今隱居艱志不為斗米折腰洵可尚也其高逸之志可昌證也

昭和五年歲次上章敦六月穀旦

宮内省御用掛從六位

賜天杯 文堂

外崎 覺撰
高山 如禅 静敬書
干峯 歲八 壽五也

門人代表

川村常吉

成田武三郎

柏原彦太郎

高谷英太郎

長谷川寛

金沢時司

葛西徳蔵

青森市浦町駅通

石工 辻和一郎